

身近で取り組む鳥獣被害対策 ～近寄りにくい環境をつくる～

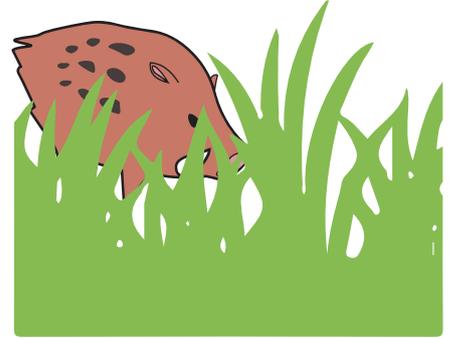
■ 集落・農地を点検する ～居心地のよい環境になっていないか～

鳥獣被害を受ける場所について、そこが彼らにとって居心地の良い環境になっていないか点検してみることが大切です。環境改善を行うことで、鳥獣被害を未然に防げる可能性があります。

(1) 隠れ場所がないか

農地の周囲が、草むらまたはやぶ状になっていると、動物にとって身を隠しながら接近したり、すぐに逃走するときなどにとっても便利な環境になってしまいます。

このような場所については、可能な限り刈り払いなどを行って見通しをよくしておき、容易な接近を許さないよう、隠れ場所をなくしてしまふことが大切です。



(2) 果樹の果実を残さない・野菜や飼料などを廃棄しない

カキやミカンなどの果樹は、特に山際などに面したところに生えているものを放っておくと、サルがその場所を記憶し周辺部に居ついてしまう可能性があります。また、野菜や飼料等の残さを農地に放置しておくと、それにつられてきた鳥獣が新たに農地への被害を拡大させる恐れがあります。



サルの食害を受けた山際の日向夏

果樹については果実を残さないよう収穫・剪定を行い、残さについては放置せずきちんと処分して、鳥獣を農地などへ招き入れないようにしましょう。

■ 効果的な追い払いの実施 ～「フリ」ではなく「本気」で、人里は怖いと憶えさせる～

鳥獣は夜行性のものも多いですが、サルやカラスなどのように、ある程度人間と同じサイクルで日中に活動する動物もいます。中には、堂々と開けた畑地へ侵入し食害を行う群れや個体もいます。このような状況を許しておくと、ひどい場合には家屋の中まで入りこまれるなど、さらなるトラブルを招いてしまう恐れがあります。

光や音で追い払うのも一つの方法ですが、慣れてしまうことがありますので、ときにはロケット花火などのような物理的な手段を用いて、徹底的に追い払いを行い、人への恐怖を学習させることが大切です。集落単位で、行動パターンを把握し、大人数で面的に実施することでさらに効果が高まります。

※ロケット花火を用いる際は、火災などに十分注意して使用しましょう。

※イノシシについては、興奮させると大変危険です。見かけたら刺激せず役場等へご連絡ください。



追い払い用の爆音機



電動銃による追い払い

◆鳥獣被害に関する問合せ：農業振興課 ☎33-6034